



一滴の水も粗末にしない心、自分以外の命を考える心

『曹源一滴水』

泰忍 弘

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤真弘〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋 潔・高橋利春
屋代 健・飯泉隆史・太田匡哉
山内芳次・近藤龍弘・近藤マリ子
近藤久美子
印刷・株式会社印刷

https://enzenji-nagaoka.com

https://www.instagram.com/
sotozen_enzenji/

ご家族の皆さままでご覧下さい

最近こんな話を思い出しました。「黄河(黄河に限らず大河)はとても大きな川ですが、上流へ上流へと元を辿っていくと、その始まりは山からの源流であり、湧き出る一滴一滴の水である」というお話です。どんな意味合いでこの話を聞いたのかが思い出せず色々考えていました。

ある方にその話をすると禅語の「曹源一滴水(そうげんのいつてきすい)」のことじゃないかと仰いました。

「曹源一滴水」とは『禅学大辞典』によると「曹溪六祖の法源より流出した正法の意」とあります。曹溪六祖とは、達磨大師から数えて六代目の慧能禅師のことであり、当時曹溪(現在の広東省)に住んでいたことからこう呼ばれていました。この慧能禅師から中国禅は大いに発展し、その教えが多く広がり今日の曹洞

宗もその流れを汲む教えを道元禅師がお伝えになり、瑩山禅師とそのお弟子様により日本国内で更なる発展を遂げました。「曹源」とは曹溪の源泉で慧能禅師のことであり、そこから溢れる正伝の禅法が「一滴水」に例えられています。

冒頭の話、源流の一滴の水は慧能禅師の教えであり、黄河とは正伝の禅法が中国や日本に広く教えが展開する様子を例えたものです。

「曹源一滴水」にはもう一つ話があります。明治の初め、岡山曹源寺という寺に、儀山禅師という方がいました。ある日、若い修行僧が風呂を沸かしていると、風呂に入ろうとした禅師が「熱いので水をうめるように」と言いました。修行僧が水を風呂に入れ、桶に余った水を地面に捨てたところ、禅師は「その水を拾え」と厳しく叱ったという話です。

同じようなお話は曹洞宗の大本山永平寺にもあります。永平寺の正面門柱に刻まれた「勺底一残水 汲流千億人(しやくていいちざんすい かくりゅうせんいっぴん人)」という言葉です。道元禅師は門前の川から柄杓で水をすくう必要分だけ使ったあと残りは川に戻したそうです。そのようなことをしなくても川の水が無くなることはありません。

しかし一滴の水も粗末にしない心、自分以外の命を考える心はとても素晴らしい尊い行いです。

昨今は昔前に比べ、環境問題や資源問題など改善に向けた取り組みが積極的になってきました。儀山禅師や道元禅師の様にすべての人が一杯の水、一滴の水を大切にすることを持てば、たった一人の慧能禅師の教えが大きく発展したように、未来を生きる人々に大きな恵みとなることは間違いありません。



【特集①】

私たち人間に必要な悠久山公園

「私たちのいる自然の空間と時間をきちんと把握する「お山」へ」

大正8（1919）年5月24日竣工・開園された悠久山公園は、先達の山田又七と田村文四郎の発起に賛同した『令終会』の人々によって、浄財が集められ市街地の学校町3丁目（旧諏訪町）から「悠久山公園道路」と蒼柴神社を含む「悠久山公園」が造営され、全国稀に見る長岡市民によって作られた、市民のための悠久山公園です。

その令終会の思想・哲学を



「令終会記憶之園」

後世に伝え学ぶために、令和元年5月24日に実行委員会を組織し、生誕100歳の悠久山公園に感謝すると共に令和元年10月22日に悠久山の頂に「令終会記憶之園」が市民の浄財によって建立されました。顕彰碑には「歴史の水脈に風土は潤い 瑞々しき大地に文化は根を張る」：

「自然の気概と それを担う人づくりは 長岡精神の根幹だ」と撰文されています。



「小林虎三郎顕彰碑の清掃」

【長岡郷土史料館南側の「令終会記憶之園」を訪ねてください】それを契機に、今までも山（悠久山）を故郷長岡の拠り所としていた各種の支援団体がヨコ型ネットワークを結集し、令和2（2020）年10月16日に『未来の悠久山をつくる会』が設立されました。

悠久山公園（お山）は、全国都市公園百選にも選ばれております。



「清掃キャンペーン開会式」

地球環境の危機が叫ばれている今、私たちは自然と人間の共生（ともいき）のあり方を考えなければならぬ時代を迎えています。

市民が健康で心豊かに生きるための貴重な資産・遺産であると同時に、未来を生きた子供たちが自然との共生を学ぶ大切な「場」であります。

以前、公園内には「長岡市立科学博物館」があり、春夏秋冬を通して子供たちと親子で自然観察を体験し、「生命」の大切さを学ぶことができました。

悠久山の自然の中で学び育てられたと「思い出を語る市民」もおられます。

地球危機が叫ばれる状況から人類の起源「生命誌」を子供たちへの環境整備事業（風致地区）として、未来の悠久山をつくるのが強く求められております。

毎年、早春の「悠久山早朝大清掃」には多くの市民が集い汗を流すボランティア活動が展開されます。また、今年6月17日に司馬遼太郎著作「峠」の映画『最後のサムライ』

が全国公開されることを記念して「長岡の三傑 河井継之助、小林虎三郎、三島億二郎」の顕彰碑を歴史探索される方々から素晴らしい悠久山公園を体感していただくことを念頭に、清掃キャンペーンを企画・実施いたしました。参加された皆さんからは、清掃する自分の良さと歴史を学ぶ「一石二鳥」を楽しませていただいたと好評の事業となりました。

コロナ禍で思うような活動展開ができない中ですが、本年度は、未来の悠久山をつくる会の組織強化のための「会員勧誘キャンペーン」を展開中です。

多くの皆様から入会いただき未来の悠久山づくりに参画し盛り上げて下さるようお願い申し上げます。

入会のリーフレット等につきましては左記にお問い合わせください。

【問い合わせ先事務局】

未来の悠久山をつくる会
ゼネラルマネージャー 今井勇
携帯090-2648-1228

【特集②】

「供養のこころ」 ～足もとの教え～

北海道 天總寺 住職 谷 龍 嗣

安善寺檀信徒の皆さま。初めまして。私は、北海道の西側にあります人口四千人の港町「増毛町」の天總寺住職の谷と申します。

増毛町は、一九八一年制作、高倉健さんと倍賞千恵子さんが共演した映画「駅 STATION」の舞台の街でもあります。そして、日本最北端の酒蔵「国稀酒造」がある街でもあります。

さて、この度、近藤方丈様からご連絡があり、安善寺様の寺報の原稿を書かせて頂くこととなりました。方丈様とは、大本山總持寺で修行を共にした仲間でもあり、特に、修行をする為に總持寺の総門を同じ日にくぐった「同日安居」という縁がございます。

今でも思い出します。私も、方丈様も修行を許可を頂く為に、平成十三年三月九日の早朝。墨染めの衣に、手甲脚絆

をつけ大本山總持寺の玄関に立つておりました。しばらくして、先輩の修行僧の方が警策といって坐禅中に肩をたたたく棒をもって、私たちの前に立ち「尊公、お山に何しに来た（貴方は大本山へ何しに来たのか）」と言います。私たちは大きな声で「修行しに参りました！」と答え、一人一人の修行の決意を確認され、ようやく中へ入れて頂いた記憶があります。

その日から、厳しくも充実した修行の日々が始まりました。一つ一つの思い出を話しますと紙面が足りなくなりますが、本日は、その中でも修行中に会った言葉を紹介させていただきます。

皆様「脚下照顧」という禅の言葉をご存知でしょうか。この言葉は、当時貫首でありました大道晃仙禅師様から頂戴した言葉です。

字のごとく、常に足元の初心を忘れず精進する事と共に、自らの足元をよく見ると、多くの方々に「支えられている事」に気がきます。そうすれば自然と、心の中から相手への「感謝」の気持ちが生まれますよ。という教えでもあります。

さて、その感謝の気持ちを仏様やご先祖様に表すものに、「供養」というものがあります。

本日は、年に一度のお盆が近いこともあり、最後に「供養」の意味をお伝えします。特に代表的な「三種の供養」の意味をお伝えさせて頂きます。

まず、一つ目の供養の意味は「供える」です。

これは、心を「カタチ」にしてお供えをする事です。例えば、母の日にカーネーションを贈るように、亡くなった

お母さんに好きな花を仏前に供えることも良いでしょう。「心をカタチにして供える」という意味です。

二つ目の供養の意味は「敬うこと」です。

これは、ご先祖様を敬い大切にするという事です。が、もつと、身近に言えば「忘れない」という事です。大好きだった亡き方の手のぬくもりを忘れない、あの笑顔を忘れない、あの声を忘れない。大切な人の「生き方」を忘れないという事です。

そして、最後は「行いの供養」です。

これは、あなた自身が、亡き人が喜ぶ生き方をするという事です。毎日の営みや行いを供えるという事です。亡き人が、一番望んでいる事は何でしょうか。きっと、その答えの一つには「あなたが、幸せに生きる」という事があると思います。

供養することは仏様だけではなく、供養をしている「あなた」が幸せに生き、心の安らぎに気付くという事なので

ですから、「供養」とは「人」偏に「共」と書く様に「人」が「共」に、身と心が「養」われると書くのでしょうか。

仏さまだけではなく、あなたただけでもない、「仏さまも『あなた』も共に幸せになる」それが供養でもあります。

年に一度のお盆です。あなたを支えて頂いている多くの命とご先祖様に手御合わせ、皆が幸せになるお盆を過ごして下さい。北海道より、皆様のお幸せをお祈りしております。

感謝合掌



住職 大本山總持寺役寮送行時（右筆者）

シリーズ
旅に
行きたい!!
第4回

「広島戦争精霊供養の旅」

その思い出

新潟ビーエス観光 飯泉 隆史

この記事を書く時にはいつもコロナの状況から始まりです。飲食業界をはじめ、観光産業は特にダメージを受けているので避けられはしないのですが、感染はピークを過ぎ、岡山0人なんて発表もあり、そして県民割引などの効果もあり、観光は賑やかになってきました。こうなることを切に願っていました。

団体での旅行も増えてきました。人数はいつもより少ない感はあるものの皆さん待ちに待った旅行は本当に楽しんでおられる様子でとても嬉しくなります。

先月私は広島戦争精霊供養の旅と題し、広島へ行きました。今回はその旅行記を書いていきたいと思っています。二泊三日の旅はまず新潟空港から伊丹空港へ飛行機で飛び、広島へ向かいます。道中、岡山県倉敷市にある主島の圓

通寺様へ参拝を致しました。圓通寺は良寛さまが修行をされた曹洞宗のお寺です。高台にあり倉敷の港が一望できます。

夕食は割烹で広島の特産の料理をいただき、宿泊はグランドプリンスホテル広島へ。来年サミットが予定されているホテルです。広島湾に面しており、一望することができ

ます。ホテルを出発し、広島平和記念公園へ向かいます。慰霊碑にて法要と献花をさせていただきました。この時ちょうど原爆慰霊碑の石室に納められた原爆死没者名簿を外気にさらし、湿気を払う「風通し」が行われていました。この巡りあわせは運命的なものを感じました。平和資料館では核兵器の恐怖や非人道性を感じ、二度とこのような事があつてはならないと心より深

く感じ、考えさせられるものでした。

広島を後にし、錦帯橋へ移動し、見学と昼食。その後宮島口へ渡り、日本三景安芸の宮島へ移動します。

海に浮かぶ大鳥居は今現在修復中で足場に覆われて残念ながら見ることはできません。厳島神社を参拝ののち自由行動。門前では沢山のお店が並び、活気がありました。

いや〜学生さんの多いこと。ここ最近の旅の主役は学生さんですね。今晚の宿は宮島にある、みや離宮にて。夜の懇親会は盛り上がりました。

最終日3日目は宮島を後にし、倉敷美観地区にて散策と昼食。白壁の蔵屋敷、なまこ壁、柳並木など、趣ある景観が楽しめます。また倉敷デニムの店などおしゃれな店や大原美術館などの文化施設もあり、いくら時間があっても足

りないですね。昼食はホテルにて洋食のコース料理です。

そして今回の旅行の最後の観光は世界遺産姫路城です。改修後真っ白な白鷺のごとく大変きれいなお城になりました。しかし姫路城はバスの駐車場から大変歩きます。さらに城内敷地に入っても天守閣までさらに歩くという大変な思い出しかなのですが、その価値、見応えは十分にあります。

そして再び伊丹空港より新潟空港へ帰路につきます。移動距離はあるものの価値のある旅行でした。

最後に安善寺様の旅行は参加者が集まらず四月は催行ができなくなりましたが、十月二十四日に延長となり、一部内容は変更となりますが、奈良を十分楽しめることはもちろん、京都宇治での見学も楽しめるコースとなっております。是非ご参加のほどよろしくお願い致します。

■旅のご相談・お申し込みは
新潟ビーエス観光まで

TEL 0258-34-4848



日本三景 安芸の宮島



倉敷美観地区



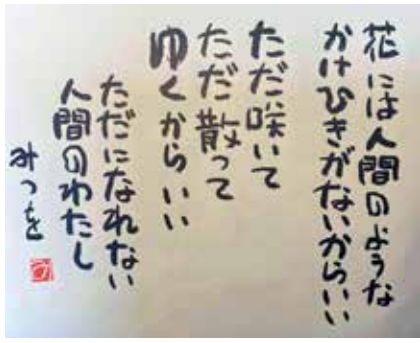
広島平和記念公園

東堂和尚のつぶやき

今に生きる姿を花に見る

朝、目が覚める。まずトイレに行く。最初に、そこにかかっている日めくりの「相田みつを作品集」をめくる。いつものパターンだ。

一年に十二回、もう何十回も読んでいる文章だが、毎回気持ちも新たになる。例えば二日の言葉は「ここは孤独なところ、自分が自分になるところ」：なるほど、周りに流されない自分になれと、納得。三日は「いまここに、だれともくらべない はだかのにんげん わたしがいます」：自分は自分、うぬぼれ心が碎か



相田みつをの名言

れ、謙虚な気持ちにさせられ、清々しい一日のスタートだ。トイレが終わると洗面、窓を開けると小鳥のさえずりが聞こえ、木々の緑や花々が目に入る。日めくりの中にも花に関する「花には人間のようない かけひきがないからいい ただ咲いて ただ散って ゆくからいい ただになれ 人間の私」：仏教詩人の坂村真民さんにも、花の詩がある「わたくしは今に生きる姿を花に見る 花の命は短くてなど歎かず 今にいきる花の姿を賛美する ああ 咲くもよし 散るもよし 花は歎かず 今に生きる」。私共は疲れた時、悲しい時、寂しい時など花を見ると、心が癒やされたり、心が落ち着きます。また、花を飾ったり、植木を育てる人も大勢おられます。木々に咲く花、蔓を伸ばしたり、大地に這って咲く花等々、花は咲くべき時期になれば精

一杯の力で咲き、時が過ぐれば散っていく。そんな無心な花々に人は癒やされたり、心が落ち着いたり、元氣や希望、優しい心を引き出されたりするのではないかと。



ただ咲いて、散る。無心な花々

安善寺 庭園型樹木葬『翠緑の小径』



【お問合せ】 株式会社 放光
フリーダイヤル 0120-811-112

安善寺 樹木葬墓地ご案内ページ

<https://anzenji-jyumokusou.com/>



安善寺 よろず掲示板

『切り株のお地藏様』

平成十五年に墓地や境内の大樫を伐採し、その切り株にお施主様を募り十八体の小さな地藏さまを安置いたしました。それから十九年、切り株も大分朽ちてきてお地藏さまも切り株にもぐったり、傾いて倒れたり、そのお役目も終えた様子になりました。

そこでこの度十八体のお地藏さまには新たな場所に移っていただくことにいたしました。新たな安置場所は本堂前の大きなお地藏さんの脇です。お盆のころには可愛いお地藏様が並んでいますので、是非ご覧になってください。



『寺行事予定』

八月 一日 盆参(新盆)

十三日 盂蘭盆会法要

(墓施食)

十四日 新盆棚経

十五日 お盆供養法要

(午前・午後)

十七日 墓地大清掃

*新盆の方には改めて法要と棚経のご連絡をいたします。

仏さまのおすそわけ
数珠つなぎフードパントリー

～誰ひとりとり残されない世の中に！お寺を提供の場へ～

食材や日用品の提供にご協力ください！！



詳細はお寺にお尋ねください

主催：長岡市仏教会青年部

協力：新潟県フードバンク連絡協議

またまた
ボブのひとり言

私に妹が出来ました。 「ウサギのルーシーと福ちゃん」



ボブのひとり言

日に日に元気になっていく
お日様を見ていると毛皮で過
ごすこの先が思いやられる。
最もつらいのは私のお気に
入りのベランダが灼熱地獄で
歩くことができなくなること
だ。

そんなベランダに悠真君が
プランター農園を作り、トマ
ト、キュウリ、ピーマンを植
えた。毎朝観察をして野菜が
育つ早さに驚いている。早く
収穫して食べたがつている悠
真君とは真逆にこの野菜たち



ウサギのルーシーとボブ

が食卓に上らないことを願っ
ている真人君です。

食事時になると私は毎度お
膳回りをしているが、悠真君
のお皿はいつもきれいに食べ
終わっていて何ももらえない
し、真人君のお皿にはいつも
野菜しか残っていないから興
味が無い。

食べ物の好みが全く違う兄
弟なので久美さんはいつも
困っている。それに引き換え
私はいい子である。猫缶とカ
リカリキャットフードさえあ
れば文句は言わない。

そういえば私にはカリカリ
フードを食べる妹ができた。
ウサギのルーシーと福ちゃん
だ。子供たちと住職が欲しい
と言いついて飼うことになっ
たのだが毎度結果は同じ、久
美さんがお世話をするること
になるのである。同じような毛
皮をまとった生き物同士だか
らなのか、妹たちは私を怖が

らない。

私が昼寝をしているとそつ
と近づいてきたり、ジャンプ
して乗り越えて行ったりす
る。昔の私なら長い爪で
シャーッと手を出しているだ
ろうが、老猫の私がすばしっ
こさで勝てるわけもなく、さ
れるがままになっている。

優しくする理由は他にもあ
る。妹たちのごはんはキャッ
トフードと同じ音がするので
私は毎度勘違いして駆け寄っ
てしまい、そして間違ったつ
いでに妹たちに便乗してごは
んをもらっているのである。
これから暑い日々が続くだ
ろうがたくさんごはんをもら
えるし、かわいい妹たちがい
るから元気に乗り越えられそ
うだニャーん！



お便り原稿用紙

皆様からの原稿をお待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職が
お答えします）など。

FAX 0258-32-2870

〈原稿送付先〉メール info@anzenji-nagaoka.com

HP にも申込フォームがあります

編集 雑感

「大般若法会」

6月12日(日)曇り、今
日は妻に急かされ大般
若法会に参列させて頂いた。本堂にはお坊様
が6〜7人、せかせかと何か準備
をされているようでした。受付
にご挨拶をし、首に輪袈裟をし、
数珠を手につくかある席の最
前列に座らせていただき時を
待っていました。

奥より殿鐘が鳴り始め、お坊
様がぞろぞろと入場しそれぞれ
の位置につき、その数は住職東
堂老師も含め15名ほどでござい
ました。これでもコロナの影響
で人数制限をされたそうです。来
年はもう少し大勢にしたいとの
事でした。私がお顔を存じ上げ
ている方も5、6人おられて安心
してお参りさせて頂いてしまし
た。般若心経が太鼓に合わせて読
まれました。大勢のお坊様のお
経は、まるでオーケストラの楽
団のようで感動させられました。

般若心経の転読（転読）は圧
巻でした。8名くらいのお坊様
がゴの字になり、中央に住職が
座られて経本を一人30冊を掛け
声とともに全員一致した動きで
バラバラパラパラと扇子のよう
に広げて転読をする動作は経本
がみんな風を受けて気持ち良
くダンスをしている様で、大変
見ごたえのあるものでした。

ご回向の中では家族の安全・健
康はもとより、除災招福をお祈
りしていただき大変ありがたく
拝聴させて頂きました。そ
の中で世界平和と国土の安穏も
読まれており、ありがたく感じ
ました。

新型コロナウイルスは2年を経
て未だに完全な収束への気配を
見せていません。ロシアの侵攻
も止まっておりません。そして
ものすごい円安と、個人の力で
はどうにもできない大変な時代
になっておりますが、安善寺で
の法要は厳粛な中に荘厳であり
大変感動いたしました。次回も
参加させて頂きたいと思ひ
ます。

(高橋 利春)